

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	平塚第二事業所新生産棟建設計画	階数	地上5F
建設地	平塚市大神字下川原3072番1、田村字上川原6496番1、田村字上川原6496番4、田村9丁目3072番6	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条区域	平均居住人員	200人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2023年1月25日
敷地面積	11,038 m ²	作成者	株式会社大林組一級建築士事務所
建築面積	6,467 m ²	確認日	2023年1月25日
延床面積	21,710 m ²	確認者	株式会社大林組一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.8

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項

総合	その他
自然エネルギーを効果的に活用します。居室エリアについては開口部を設け、自然光を効果的に取り入れることで省エネに配慮します。 外壁には断熱サンドイッチパネルを全周採用し、建物全体の断熱性能を高めて熱負荷を軽減します。	-
Q1 室内環境 -	Q2 サービス性能 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせています。
LR1 エネルギー -	LR2 資源・マテリアル フリーアクセスフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしています。
-	Q3 室外環境(敷地内) -
-	LR3 敷地外環境 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮しています。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される